様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：１０１０２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５３０９３７

研究課題名（和文）ソビエト教育史におけるマカーレンコ理論再評価の実証的研究

研究課題名（英文）An Empirical study on re-evaluation of Makarenko theory in the Soviet history of education

研究代表者
桑原　清（Kuwabara, Kiyoshhi）

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：００１７８１５４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：　ソビエト初期の教育者A.S.マカーレンコの教育理論・教育実践の評価にあたっては、ソビエト期、現代ロシアにおいても評価が確定していない状況がある。第一はスターリン主義的であること、第二はロシアや海外の理論や実践〔新教育〕を発展させたものであるということである。
　研究代表者は、それがスターリン主義とは相容れないこと、実際には「社会主義体制」の枠内での理論・実践を超えたものにはなっておらず、自由教育を発展させたものにはなっていないこと、さらに、学習理論において多くの改良余地があったことを指摘した。

研究成果の概要（英文）：　In evaluating the theory and practice of education on A.S.Makarenko, an educator in the early Soviet period, there are situations in which the evaluation has not been determined in Soviet Union and even in contemporary Russia. It is for the following reason. In the first, the theory and practice of education on A.S.Makarenko is a Stalinist, in the second, it is a development of Russian and foreign theories and practices <new education>.
 Research representatives pointed out that the theory and practice of A.S.Makarenko is Stalinist incompatible thing and, actually did'nt turn to those beyond the theory and practice within the framework of "socialist system", further there was a lot of room for improvement in the learning theory.

研究分野：社会科学

キーワード：ソビエト教育学　集団主義　新教育　自由教育　スターリン主義　労働教育　学習理論　少年犯罪

１．研究開始当初の背景

欧米でのマカーレンコ研究は、古くは、英米の研究〔ニコラス・ハンス Nicolas Hans(The Russian Tradition in Education, 1963)、ジェームズ・ボーエン James Bowen(Soviet Education, Anton Makarenko and the Years of Experiment)〕、その後は〔西〕ドイツの研究〔ギョーツ・ヒリッヒ Götz Hillig〕が主導的な役割を果たしてきた。近年のヒリッヒの研究的立場の変化を除けば、共通することは「個人の集団への従属」「全体主義批判」であった。しかしヒリッヒは、それに対してかつての立場を変化させ、マカーレンコが、全体主義者ではないという立場（Götz Hillig, Макаренко и власть, <Макарнко Альманах>, No.1）をとるようになった。前者は政治主義的批判であり、後者は逆に政治的状況に対する軽視ないし無視が問題点として指摘しうる。

他方、ロシアは長期にわたって西側陣営と論争を繰り返してきた。主要な対立点は「個人と集団の関係」、「罰の有効性」、「マカーレンコがスターリン主義者であったかどうか」等であった。しかしながら、ソ連崩壊後、ロシア国内においても、これらの問題は、論争中である。ロシア教育科学アカデミー・ニカーンドロフ会長は、2002 年 10 月の常任委員会で教育学を脱マカーレンコ化すること、マカーレンコと関連する全てのものを教育学から追放することを呼びかけた。そのようなことに対して、マカーレンコ支持の研究者の方から、反対に、再評価する動きが活発化されたのである。フラローフ（А.А.Фролов）、カズローヴァ（Г.Н. Козлова）らは、マカーレンコが、訓育の定義において、19 世紀以降のロシア教育学の伝統を創造的に発展させ、訓育の目的・方法・成果の相互関係をはじめてつくりあげたとまで評価し、現在の学校の基本理念をマカーレンコ式に置き換え、労働原理に基づいた学校の改造をも提起している。マカーレンコが生き、実践した歴史性を再検討した上でのマカーレンコ評価が必要なことは論を待たないであろう。

日本におけるロシア教育史研究では、藤井俊彦氏の『マカレンコ教育学の研究』（1997 年）、岩﨑正吾氏の「ソビエトにおけるマカレンコ教育思想の受容」（2002 年）、「マカーレンコとスターリン主義 ： 論争的テーマへの考察と注釈」（2006 年）等の一連の論考が先行研究としてこの 10 年の間存在している。しかしながら、藤井氏は諸外国の研究の整理という点やマカーレンコ実践の諸概念「集団」「自由と規律」「平行的教育作用」等の詳細な分析はあるが、1920～30 年代のソビエト社会の状況、そこにおける「思想・言論・表現の自由」の欠如が基盤としてある社会で学校と関連させての課題は多大に残されていると指摘せざるを得ない。岩﨑氏の一連の研究においても、マカーレンコが「スターリン主義者ではなかった」とヒリッヒに触発されて研究を進めてはいるが、藤井氏と共通する問題点は解決されないまま温存されている。ソビエト教育学の独自性を主張することよりも、新教育との関連も含めた視野で、いわば教育学の世界史的課題と関連させて位置付け直す必要があると考えた次第である。

２．研究の目的

本申請者は、大学院時代から一貫してソビエトロシアの教育について、その歴史的な状況と、教育学の理論的・実践的蓄積を常に対照させながら研究を行ってきた。ロシア期・ソビエト初期の訓育論については、「専制化のロシアの学校と新しい訓育理論の試み」（『教育史比較教育論考』第 11 号、1985 年）、「ソビエト学校初期の訓育理論の探求－生徒自治の形成を中心として」（『北海道大学教育学部紀要』第 46 号、1985 年）において、ロシアの教育の到達点とソビエト初期における新教育との関連を明らかにしたが、直接的にはペレストロイカとソ連崩壊後のロシアの教育研究状況の変化であった。「ゆれるマカレンコ像」（『ペレストロイカと教育』、大月書店、1991 年）によって、ロシア国内の研究状況の整理とマカーレンコ訓育論の問題点を指摘した。①個人と集団の関係の把握、②ソビエト期の政治状況との関係の指摘のないこと、③個人－社会（国家）－党の関係の三位一体的把握である。その後、ロシアの学会（『教育科学と実践にかんする全国科学・実践会議』、サラーンスク）での招待講演『日本における PISA 研究と教育、教授・学習の諸問題 2008 年 10 月』（Результаты исследования PISA и проблемы образования и обучения в Японии）の際に、訓育問題での日本からの問題提起とマカーレンコ問題の研究交流を行った。しかしながら、本申請者の考えていることがそのままは受け入れてもらえない状況にあった。そのことが今回の申請の直接的な発端となっている。

その後、教育史学会（第 53 回大会、名古屋大学 2009 年 10 月）のコロキウム（ロシア教育史研究の新動向）において、「マカーレンコ評価の新動向」、北海道教育学会（第 54 回大会、北海道大学 2010 年 3 月）で「ソビエト教育学の再検討～現代マカーレンコ理論の再評価をめぐって」を報告した。そこでは、ロシアにおける最近のマカーレンコ評価の背景と訓育の重視によって青少年の訓育分野における状況を変化させる国家的必要を指摘した。さらに、①歴史的制約を考慮に入れること、②訓育における教科教育の役割の過小評価、③近年ロシアで問題となっている「リハビリの教育学」（臨床教育学）の出現の意味について提起を行った。

その後のロシアにおける 3 度にわたる資料収集成果を踏まえて、教育史学会（第 54 回大会、早稲田大学 2010 年 10 月）において以下のことを明らかにした。①肉親が白衛軍の亡命者であるということからマカーレンコが単なるスターリン主義者ではなかったこ

と（つまり入党もせず、反抗もできないこと）という微妙な立場で青少年の矯正教育実践を行っていたこと。②マカーレンコは旧来の教育学を否定したがゆえに教育学的知識を持っていなかったし持とうとしなかった。③21 世紀のロシアの教育改革は、実効性がないのではないか。あるのは、徳育の強化につながるということであろう。このことの原因は、マカーレンコとその後のソビエトロシアの教育の歴史を正しく捉えていないことに起因すると考えられる。

マカーレンコをめぐる重要な論点について、一定程度明らかにできたと考えているが、しかしながら時間的・物理的な制約もあり、マカーレンコが活動をしてきたゴーリキー・コローニャ、ジェルジンスキー・コムーナに関する基礎資料を収集することができていなかった。また当時の地元の教育人民委員部との関係に関する資料、学校教育との関係についても同様の課題が残っていた。

これらのことを踏まえて、マカーレンコの実践が当時の世界の教育学・実践と断絶していたのか、または一部継承していたものであるのかを明らかにすることを課題とした。そのことを行うことにより、現代において、外国や日本が抱えている教育・訓育問題の解決に研究に寄与することを目的とした。

３．研究の方法

本研究の計画と方法については、代表者が研究課題の解明・解決につながる資料と研究交流を行うため採択年度内にモスクワおよびウクライナに出張し、これまでの書籍・資料の所在情報と現地協力者の助言とに基づいて、図書館と公文書館におもむき、資料を調査・収集することとした。これらを所属機関において読解・分析し、論文化する、これを学会発表し専門的評価を問うことになる。

（平成 24 年度）8 月 12 日～24 日に研究代表者が出張し、現地の研究協力者〔ニジェゴーロド教育大学、フローロフ学派（A.A.フラローフ教授・博士、E.Y.イラルトジーノヴァ准教授、S.I.アクショーノフ講師)〕と打ち合わせ会議を持ち、本計画の解明課題、資料調査の方針等を確認した。とりわけフローロフ博士は、今まで書きためてきた資料集の編纂、論考を多数発表しており、マカーレンコ教育・訓育論研究においていくつかの点で本申請者とは相違はあるものの、研究交流を行いかつ資料提供を受けた。またモスクワにおいてはロシア国立ウシーンスキー教育学図書館の資料を閲覧複写してきた。これらを基礎に、9 月開催の教育史学会第 56 回大会〔お茶の水女子大学〕で「ソビエト教育学における訓育論形成をめぐって～集団主義の形成をめぐって～」の口頭発表を行った。また 10 月にロシア国立ニジェゴーロド教育大学附属図書館、ロシア国立ニージニィ・ノーヴゴロド州図書館およびモスクワの国際マカーレンコ協会での資料収集、研究交流を行ってきた。研究交流の一環として、平成 25 年 3 月開催の「マカーレンコ生誕 125 周年国際科学・実践会議」での口頭発表〔Вопросы, связанные с введением теории и практики А. С.Макаренко в Японии ~пересмотр советского социализиа,теории и практики А.С.Макаренко ≪Международная научно-практическая конференция, посвященная 125-летию со дня рождения А.С.Макаренко》, Нижний Новгород, 28 марта 2013 года.〕を行った。

（平成 25 年度）平成 25 年 5 月 4 日～12 日に、研究代表者が出張し、モスクワの「古文書館」におけるマカーレンコ直筆資料・タイプ原稿の読み取りと複写を中心に行い、その他「ロシア国立図書館」でのマカーレンコ関係博士論文の閲覧・複写を行った。そこでのテーマは、マカーレンコ集団主義理論の形成とその歴史的意義の探究であった。とりわけ「古文書館」でのマカーレンコ直筆資料・タイプ原稿の読み取りと複写は、今までの研究では、必ずしも重要視されてこなかった事柄の解明に大きな役割を果たすものと考えている。

平成 25 年 8 月 17 日～9 月 1 日にロシア国立ニジェゴーロド教育大学でのセミナー・研究交流を数回行い、マカーレンコ集団主義理論の形成の状況、およびその問題点を主として報告し、ロシア国立ニージニィ・ノーヴゴロド州図書館での資料収集も含め、大きな収穫を得た。その成果として、「教育史学会第 57 回大会」〔平成 25 年 10 月 13 日～14 日：福岡大学〕において、「A. C. マカーレンコにおける集団主義理論の形成と労働原理にかんする考察」の口頭発表を行った。

さらに、平成 26 年 3 月 18 日～31 日に、平成 26 年 10 月開催予定の「マカーレンコ国際シンポジウム」の内容の検討と資料収集、シンポジウムにおける発表テーマについて打ち合わせを行った。

（平成 26 年度）学力論として、論考 <Результаты исследования образования PISA и проблемы образования и обучения в Японии>〔Особенности профессиональной деятельности подготовки учителя в контексте ведущих идей《Федерального государственного образования стандарта общего образования 》и《Федерального государственного образования стандарта вышего профессионального образования 》, Том 1, НГПУ им. К.Минина, Нижний Новгород, 2013 г., 21-26.〕を平成 25 年 10 月にロシアで出版した。また、平成 26 年 10 月 30 日に行われたマカーレンコ国際シンポジウム〔ロシア国立ニジェゴーロド教育大学〕で口頭発表〔Современное значение исследования Макаренко - Трактовка труда в наследии А. С. Макаренко и в современном

фиософии по книге«Ханны Арендта и К. Маркса》〕を行った。

４．研究成果

これらを通して、①日本におけるマカーレンコの集団主義の理解は誤っており、集団主義の形成が労働原理と不可欠であること、②ロシアにおけるマカーレンコ論(マカーレンコが自由主義教育の継承者という把握)は一面的であること、③ソビエト・ロシアにおける「社会的教育」に必要な思想・表現・言論の自由とコミュニケーション形成を分析の中心に据えなければならないとの結論に至った。上記のことを踏まえて、今後課題設定を新たに行う必要があると考えている。それは労働・生活過程と教育の関係、学校教育において実際に生じている事態をどのように認識し授業・教育活動に反映させていったのかについての実証的研究の必要性となる。今後のマカーレンコ研究の現代社会における意義を再び設定し直す必要があると考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　0 件）

〔学会発表〕（計　5 件）

2014 年度

①Кувабара Кийоси, <Современное значение исследования Макаренко - Трактовка труда в наследии А. С. Макаренкои в современном фиософии по книге«Ханны Арендта и К. Маркса»>, (Международный симпозиум «Современное макаренковедение: история, состояния, переспективы»,), Нижний Новгород, 30 октября 2014 года.

② 桑原清,「A.C.マカーレンコとソビエトロシア訓育・実践論の形成にかんする考察」、教育史学会第 58 回大会、日本大学文理学部、2014 年 10 月 5 日。

2013 年度

③桑原清、「A.C.マカーレンコにおける集団主義理論の形成と労働原理にかんする考察」、教育史学会第 57 回大会、福岡大学、2013 年 10 月 14 日。

2012 年度

④Кувабара Кийоси,<Вопросы, связанные с введением теории и практики А. С. Макаренко в Японии~пересмотр советского социализиа, теории и практики А. С. Макаренко~>, <Международная научно-практическая конференция, посвященная 125-летию со дня рождения А.С.Макаренко》, Нижний Новгород, 28 марта 2013 года.

⑤ 桑原清、「ソビエト教育学における訓育論形成をめぐって～集団主義の形成をめぐって～」、教育史学会第 56 回大会、お茶の水女子大学、2012 年 9 月 22 日。

〔図書〕（計　1 件）

①Кувабара Кийоси,<Результаты исследования образования PISA и проблемы образования и обучения в Японии> «Особенности профессиональной деятельности подготовки учителя в контексте ведущих идей» и «Федерального государственного бразования стандарта общего образования » и «Федерального государственного образования стандарта вышего профессионального образования», Том 1, НГПУ им. К.Минина, Нижний Новгород, 10 ноября 2013года, 21-26.

〔産業財産権〕

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者

桑原 清（KUWABARA, Kiyoshi）
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：00178154